



赤血球・白血球・血小板

大病を知らせる警鐘です

**「白血病は「血液のがん」
数値が上がったら要注意」**

血液の主な構成要素(細胞成分)が、赤血球、白血球、血小板です。赤血球は臓器をはじめ、体のすみずみまで酸素を運ぶのが基本的な仕事。白血球は、体内の異物を感じて排除するのが一番の役目です。血小板は血を止めるのに必要な成分。出血した際、傷口にフタをして血液が漏れるのを防いでくれます。

各々に重要な働きがありますので、少なくなると体に悪影響を及ぼします。赤血球が減って必要な酸素が行き渡らなくなると息切れしやすくなります。白血球が足りなくなれば抵抗力が落ち、風邪などの感染症にかかりやすくなるでしょう。血小板数が少なくなると、

血がなかなか止まらなくなります。

これらが急激に減少する一例が、抗がん剤を使用した時です。血液は骨のなかにある骨髓でつくられています。骨髓が抗がん剤の影響を受け、3つの成分をつくる機能が抑えられるのです。白血球が減少すれば極端に抵抗力が落ちるので無菌室に入って、正常値に戻るまで待たなければいけません。細菌感染を起こせば、敗血症(感染症によって生命を脅かす臓器障害が現れる状態)を患うなど、命にかかります。

逆に白血球が増えすぎた病気が白血病で、「血液のがん」とも呼ばれます。健康ならば白血球の数は、男女ともに1マイクロリットルに4000~9000個が基準です。ところが白血病の方は2~3万個以上に増えることもあります。これらは、数は多くても殺菌力の弱い白血球なのです。正常な白血球が減るので、感染症にかかりやすくなってしまいます。

**貧血を放っておかず
がんの可能性も疑おう**

赤血球、白血球、血小板の数値は、がんなどの重篤な病気を見つける上で重要なです。BMIなど生活習慣病に関わ

る項目とは、数値の意味合いが違うので。たとえば白血球数の多さから精密検査をして、白血病が発見されたケースもありますし、また赤血球の数が少ないときは、胃潰瘍や大腸がん、胃がんとの関連性も疑われます。

私も、糖尿病の数値が急に悪くなったという貧血の方の、胃がんを見つけたこともあります。がんは早期発見が根治につながります。自覚症状がないからといって、放っておいてはいけません。

血小板の数値が極端に下がっている場合も、感染症や悪性腫瘍、肝硬変などの可能性があります。逆に数値が高い方は、慢性的な炎症性疾患や悪性腫瘍が原因のケースも。健診結果に注意してください。

白血球のバランス維持には、睡眠をしっかり取ること。睡眠時間が短く興奮した状態が続くと、自律神経の交感神経(活動する際に働く神経)が優位になり、白血球を形成する成分の一つ、リンパ球の数が減ります。リンパ球はウイルスに感染した細胞を攻撃するので、減少すれば抵抗力が低下します。風邪をひきやすくなるのも、そのためだという説もあります。寒い季節こそ、より十分な睡眠時間を確保してください。



白血病患者数の推移



厚生労働省の平成26年度「患者調査」をもとに作成



【監修】浅海直 あさうみなほ
医療法人社団平成医会 産科医

1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松江市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。